

第46回日本赤十字社医学会総会報告



石巻赤十字病院 放射線第1技術課長 及川順一

2010年11月11日(木)～12日(金)
宮城県 仙台国際センターにおいて「第46回日本赤十字社医学会総会」が開催されました。

「今こそ力を合わせ、医療の荒波を乗り越えよう」をメインテーマに、石巻赤十字病院 飯沼院長の開会宣言の後、大小10の会場に分かれて全国から約1200名が集結して、シンポジウム8題、要望演題に240題、一般演題に352題、計600演題の発表が行なわれました。

日本赤十字社に勤務する様々な職種の方々が一堂に会する学会は、稀であり、職種に関係なく議論できる貴重な機会であります。他部門の問題や取り組みを知ることにより、互いに理解を深めて、協力や連携の必要性を強く感じる場所でした。

第1日目午前中は、シンポジウム「地域医療連携の進め方」を皮切りに、それぞれの会場で活発な討論が行われました。4会場でランチオンセミナーが開かれ、地場産品を使った医学会総会特製弁当が用意されました。



午後、総会の後、教育講演として、東北大学加齢医学研究所の山家智之教授による「荒波を乗り越えるための医工学と人工臓器」と題して講演をいただきました。近い将来実現可能な電子診療靴や医学と工学の緊密な関係で生み出される画期的な装置等のお話を聞くことができ、プロフェSSIONナルの神髄を感じることができました。休憩をはさみ、



特別講演として、高成田享氏による「魚を見れば世界が見える」と題して講演をいただきました。高成田氏は、朝日新聞アメリカ総局長や論説委員を歴し、テレビ朝日「ニュースステーション」のキャスターも務め、現在朝日新聞石巻支局長を務めています。魚の町石巻から、資源問題や食文化までさ

まざまな分野の情報、メッセージを発信しています。



1日目の終わりに「医療人の集い」が、開かれました。ウェルカムコンサートとして、仙台フィルハーモニー管弦楽団の五人のメンバーで構成する「Orchla(オケラ)木管五重奏団」による演奏で、皆様を迎え入れました。医療人の集いでは、地元石巻や宮城の食材を使った料理で皆様をおもてなしました。石巻産桃生ポークのスペアリブ、石巻産森林鶏の丸揚げ油淋ソース、金華サバのメ鯖寿司、石巻産牡蠣の老酒辛子炒め、B級グルメの石巻焼きそば等々「石巻」にこだわって取り揃えました。もちろん仙台の牛タンも忘れてはけません。それから、石巻の純米大吟醸酒を使ったカクテル(女性に人気)も用意しました。さらに、東北の各施設様から頂戴した地酒が多数並べられて、飲ん兵衛にはたまらないものであり、食べる物も食わずにまずは全種類を試飲しなければ落ち着かないほどでした。



集いには 634 名の方にご参加いただき、盛会のうちにお開きとなりました。この日は、例年に比べて暖かく、国分町界限（歓楽街）へ行かれたかたも多か



ったのではないかと思います。

第2日目 8:30 からポスター演題の展示、9:00 から要望演題の発表などが行なわれました。前日の熱を帯びた討論会が夜遅くまで続いて、参加人数が少ないのではと思って

いましたが、朝早くから大勢の参加者が訪れ活発な討論が行なわれました。ポスター会場では、窓ガラスが曇るほどの熱気があり、それぞれのブースで多くの意見が交換されていました。

2日目の特別企画として「みんなで考える DMAT 時代の災害医療」と題してのシンポジウムが開かれました。これからも「災害医療は日赤救護班の使命である！」ために、日本赤十字社は研修・訓練をどのように進めるべきかを、真剣に考え討論されました。



12:10 に閉会式が行われ、2日間の日程を終了しました。穏やかなお天気だったので、観光するには最適なお日和でした。仙台市街、塩竈、松島、石巻へと足を伸ばしていただけただけなら幸いです。

次回第 47 回は、福井赤十字病院担当で行われます。多数の御参加を祈念致します。

